

## 「環境先進都市の創造に向けた議員懇談会」議事録

参加政党 公明党

参加議員 山下氏、宮坂氏、上野氏、川畑氏

場所 市民フォーラム視聴覚室

日時 10月8日(木) 18時から19時30分

議 皆様方の活動には頭が下がる思いでいる、理念もしっかり持っているが、熱心な皆さんと一般市民との温度差が課題だと思う。

議 八丈島の公明党の議員から、町田はごみ問題が進んでいるから資料を送って欲しいと言ってきたのには驚いた。

議 CO2の25%削減、環境先進都市というなら、コンビニの営業時間やテレビの24時間放映も問題にしなければと思う。

議 環境を重視することによって、経済構造を変えていくということが大切だと思う。

先日都営団地の自治会から生ごみ電動処理機(バイオ、乾燥型)の説明依頼を受けた。

議 生ごみ、廃プラを考えた場合どちらを先に考えるのが妥当なのか。

\* 生ごみは殆どが水で可燃ごみの重さの4割を占める、これを燃やすとなると、燃料も必要、プラスチックは燃やすと高熱で炉が傷む、どちらも重要課題。

\* やはり生ごみだと思う、生ごみは家庭で処理できる唯一のごみ、生ごみが無くなることで、次のごみ、廃プラが見えてくる、ある意味環境教育でもある。

議 電動生ごみ処理機について調べると、ランキングで高いのは乾燥型だけれど、バイオ型との兼ね合いはどうだろうか。

\* 乾燥型は電気代が掛かると言われていたが、夜間電力を使うと安くなるという情報がある、水分を少し残すことによって、堆肥化も可能なことも分かってきた。技術も日進月歩であることは確かである。東京農大に様々な処理機の堆肥を16検体送り、検証している。ライフスタイルの多様性を考慮して今後の参考にしたい。

\* 要は堆肥にするのにはどちらが楽かということだと思う。

議 まだ機種を絞る段階ではないのだろうか。生ごみ堆肥化は市民がその気になれば出来るが、市民の意識を変えていくことは大変なことでもある。

議 市民が便利な生活を享受している現状をどう変えていくかが問題だ。ごみを出すだけで精一杯な市民に理解してもらうのは大変なことだと思う。

\* ごみゼロ市民会議で行った生ごみの堆肥化実験に参加した人が、可燃ごみから生ごみを除いたらごみの収集日が気にならなくなり、週1回でもいいと言い出し、今度は廃プラが気になりだした。これは環境教育ではないかと思った。

\* 可燃ごみの中で、家庭で完結処理できる唯一のごみは生ごみだ。

\* 市民にとって不安なのは、これまで通り予算がつき、生ごみ処理機器普及の活動が続け

られるのか、予算が出たら修正の余地はないだろうから、気掛かりだ。

議 今、政策形成の可視化ということが言われ出している。市民協働をうたうなら、市民参加でやるべきだと思っている。

議 他市のゴミ袋の有料化では、ごみの収集量のリバウンドがあるが、町田市ではみられない。市民から取得した財源（有料ゴミ袋）は毎年 7 億円にもなるが市民の自治条例も無いのが現状だ。ゴミ袋の収益金の使い道も不透明なので、議論していきたい。

議 大型生ごみ処理機の条例化を考えている。公営住宅に生ごみ処理機を導入する際、公団に掛け合い苦労した経験がある。集合住宅、アパートの大家は住民から生ごみ処理機導入の希望があった場合は努力する義務がある、又公の大家は断ることが出来ないなどの条例を考える必要がある。

議 レジ袋の有料化も含めて、コンビニにも指定ゴミ袋を置いて欲しいと思っている。

\* ゼロ・ウェイスト宣言に対してどう思われているのかお聞きしたい。

議 すでにゼロ・ウェイストの考えは広まっていると思っているが、時期尚早の感がある。もう少し理念の浸透や、状況が整ってからでないと、厳しいと思う。

議 目標は高いほうが良いと思うが、ウェイストという言葉の意味がピンとこない。

議 地域に浸透させるためには、自治会等へのインセンティブも必要ではないか。